

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	小林 奈津子
論文担当者	主査 廣野 誠子
	副査 新崎 信一郎
	副査 大島 健司
学位論文名	Metabolic dysfunction - associated steatotic liver disease criteria may underestimate the number of lean female nonalcoholic fatty liver disease patients with significant liver fibrosis (代謝機能障害関連脂肪性肝疾患の診断基準は、線維化の進行した痩せ型女性の非アルコール性脂肪性肝疾患患者を過小評価する可能性がある)
論文審査の結果の要旨	
<p>代謝機能障害関連脂肪性肝疾患 (Metabolic Dysfunction Associated Steatotic Liver Disease: MASLD) は脂肪性肝疾患の新しい概念であるが、この診断基準で、非アルコール性脂肪性肝疾患 (Non-alcoholic fatty liver disease: NAFLD) 患者の中で予後不良とされる肝線維化進行例を適切に囲い込めるかということを検討した。対象は、兵庫医科大学健康医学クリニックにおける健診の超音波検査で NAFLD と診断された 4112 人の患者とし、FIB-4 index を用いて肝線維化を評価し、肝線維化進行例の定義は、65 歳未満の場合は 1.3 以上、65 歳以上の場合は 2.0 以上とした。結果として MASLD と診断されたのは 3828 人 (93.1%)、非 MASLD は 284 人 (6.9%) であった。非 MASLD 群は、MASLD 群と比較して、有意に若く (44 歳 vs. 55 歳)、女性の割合が高かった (62.3% vs. 27.7%)。線維化進行例は、MASLD 群の 708 人 (18.5%)、非 MASLD 群の 44 人 (15.5%) に存在した。多変量解析では女性が肝線維化進行例の非 MASLD に関連する有意な因子であった。(オッズ比 6.170、95%信頼区間 3.180-12.000、$p < 0.001$)。非 MASLD 群で肝線維化進行例 ($n=44$) のうち、女性は男性よりも有意に BMI 値が低かった ($p < 0.001$)。以上の結果から、MASLD の診断基準は、痩せ型の女性 NAFLD 患者において、肝線維化進行例を適切に絞り込めない可能性があることが示唆された。そこで、痩せ型の女性 NAFLD 患者に対しては、心血管代謝異常の有無にかかわらず、肝線維化の評価を行い、肝線維化進行例を抽出することが大切であると考えられた。</p> <p>本研究の内容は、脂肪性肝疾患の診療において重要な知見であり、学位授与に値するものと判断した。</p>	